

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2016年度達成度評価表 分野: 学生支援

		評価	理由
中期計画	1 健康的で充実した学生生活の実現		
実行計画	(1) 学生への生活支援策(健康管理・下宿・アルバイトなど)を強化する。	C	昨年度から状況はあまり変わっておらず、具体的な改善策も講じられていない。最終年度(2017年度)に向けて、どのような現状からこの計画を策定したのか、原点に立ち戻って実行する必要がある。
	(2) 学内奨学金制度などの見直しを行う。	A	2016年度溝口奨励金の運用を開始し、大きな問題なく先行できたことは評価できる。継続的に見直しを行い、さらに充実することを期待する。
	(3) 各種相談室の充実とその連携協力体制を強化する。また、医務室の体制を整えていく。	B	昨年度に引き続き、計画に基づいた取り組みを継続的に実行できており評価できる。最終年度(2017年度)は、課題・問題点は残されていないか、新たな課題はないか等をチェックした上で、実行することを期待する。
	(4) 「なんでも案内」「ピア・サポート」などによる学生生活支援体制を構築する。	B	昨年度までの課題・問題点を踏まえた改善策を確実に講じるとともに、あくまでも学生の主体的な動きを促す支援に徹しており、評価できる。年度を重ねることに体制は強化され、利用した新入生からの満足度も99.8%と大変高く、継続した取り組みに期待する。しかし、「ピア・サポート」については有瀬キャンパスのみで、ポートアイランド・キャンパスでも実行されることを期待する。
	(5) 新入生へのフォローアップ(サポート)体制を確立する。	B	おおむね目標を達成できており、評価できる。SNSによるトラブルが社会問題になりつつある今、SNS利用の注意喚起のための講演会等については、早急に全学部で実施することが望まれる。
中期計画	2 安全で快適なキャンパス環境の充実		
実行計画	(1) ハラスメント防止策の徹底を図る。	B	専任教員だけでなく非常勤講師もハラスメント研修の対象としたことや、新入生オリエンテーションやリーダーズトレーニングにおいて、本学のハラスメント防止策を周知したことは評価できる。しかしながら、一部の部署において、取り組み内容が不明であったり、そもそも年間目標自体が定まっていないところが見られるため、改善が望まれる。
	(2) 禁煙指導を強化する。	B	昨年度に引き続き、学生及び教職員から寄せられる苦情が少なくなっており、一定の成果が見られ、評価できる。しかしながら、学生数が増加したキャンパスにおいて、喫煙マナーが悪くなっているという問題も昨年度から引き続きしており、改善が望まれる。
	(3) 防犯対策を強化する。	B	防犯対策については、ハード面、ソフト面ともにさまざまな対策を行っており、評価できる。防犯意識をさらに高めるためには、入学時だけでなく、2年次以降も継続して啓発を行う必要がある。
	(4) 薬物乱用防止のための啓発活動を強化する。	B	新入生に対して、継続的に講演会等を実施しており評価できる。今後は、新入生だけでなく、2年次生以上の学生に対しても実施することが望まれる。
	(5) 学生のグループワークを促進するためのゾーンを設置する。	-	今年度の計画は無い。
	(6) 学内食堂、売店などの充実を図る。	-	今年度の計画は無い。
	(7) 学内トイレ、洗面所などの改善を進める。	B	学内トイレ、洗面所の改修が順次行われており、評価できる。今後も、学生が快適に過ごせるよう計画的に改修を行うことを期待する。
中期計画	3 課外活動の奨励と支援		
実行計画	(1) 課外活動参加者の増加策を検討する。	-	今年度の計画は無い。
	(2) 強化クラブ、準強化クラブ制度の再構築を行う。	-	今年度の計画は無い。
	(3) 課外活動活性化推進室(仮称)の設置を検討する。	-	今年度の計画は無い。
	(4) 課外活動および各種学生団体、グループの発表・展示・活動の促進と支援を図る。	A	課外活動においても、附属高校との連携が図られ、高校移転の効果が現れてきており、評価できる。今後も継続的な取り組みに期待する。
	(5) 課外活動施設・設備の充実を図る。	-	今年度の計画は無い。
中期計画	4 キャリア支援の強化		
実行計画	(1) 企業訪問、学内企業説明会などによる企業との接点を強化する。	B	地道な取り組みが少しずつ成果を上げており、評価できる。最終年度(2017年度)に向けて、さらなる強化に期待する。
	(2) インターンシップ制度の充実を図る。	C	学部独自のインターンシップ制度は一定の成果が上がっており、今後、さらに充実することが望まれる。一方で、低学年向けのインターンシップについては、コアとなる部署からの積極的な働きかけが不十分であり、見直しが必要である。
	(3) 学生の就職活動状況の的確な把握のために、学部、研究科との連携を図る。	-	今年度の計画は無い。
	(4) 既卒者を含む就職未内定者に対するサポート体制を強化する。	B	既卒者を含む就職未内定者に対するサポートについては、キャリアセンター独自の事業(行事・企画)とハローワークとの連携で支障なく取り組んでおり、評価できる。継続的な取り組みによるさらなる体制強化に期待する。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る